

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4572000562		
法人名	有限会社すいせん		
事業所名	グループホームすいせん川南	ユニット名	2棟
所在地	宮崎県児湯郡川南町大字川南19415-1		
自己評価作成日	平成23年11月18日	評価結果市町村受理日	平成24年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4572000562&amp;SCD=320&amp;PCD=45">http://www.kaigokouhou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4572000562&amp;SCD=320&amp;PCD=45</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成23年12月14日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

静かな住宅街の中に立地しており、自然環境にも恵まれています。広い庭を地域の住民の方や保育園、幼稚園の遠足等に活用して頂けるよう垣根を壊して、出入りがし易いように致しました。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者の尊厳と誇りを第一にした理念の下、管理者、職員は利用者へ寄り添い、思い思いに1日が楽しく過ごせるよう支援している。地域に密着したホームを目指す取組の1つとして、広い芝生の庭にスロープを作るなどの改修を行い、交流の場として地域に開放している。また、運営推進会議の目的もしっかり生かされ、地区の広報に載せるなど、委員による啓発活動が活発に行われている。利用者の楽しみの1つとして貼り絵の製作をしているが、全員で1つの大作を完成させることで、それぞれが夢中になる時間となっている。職員のケアの資質を高めるための意識が高く、利用者の日常生活動作の自立度は高い。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は常に目に入る場所に貼り、会議の中で読み上げたりして、職員に意識付けを図り皆で共有し、日々のケアに活かせるようにしている。		職員全員で話し合い、基本となる理念をつくり、3本の柱として掲げている。管理者、職員は、利用者一人ひとりの尊厳を守るための勉強会を行うなど、本人本位の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区で行われている地域ふれあい事業に参加している。		月に1回の地区行事の参加を継続している。今年、庭の改修工事を行い、地域住民に開放したことで、子どもたちの声も聞こえるようになった。地域の幼稚園生やコーラスグループの来訪もあり、日常的な交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、認知症介護の講演会を開き、理解を深めて頂けるよう努力をしています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の状況及び利用者様の現状報告、意見の交換を行い、改善すべき点は改善して、よりよい施設づくりに取り組んでいます。		定期的実施しており、参加者から意見や提案が多く出され、活発な討議がなされている。その内容も災害時対策、感染症や地域との交流についてなど、運営やサービス向上に生かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の訪問を受けたり、利用者様の状況報告を行っています。また、長寿会の作品展にも参加させて頂き、利用者様の作品を展示し、沢山の方にご覧いただけました。		利用者の作品発表の場がないかと相談したところ、すぐに対応してもらったりと、日ごろから連絡を取り合い、良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	出来る限り施錠はしないように心掛けているが、利用者様の状況による。身体拘束に関しては、ベッドの柵や車いすのベルト等になりますが、どうしても必要な場合には必ずご家族へ説明を行い、同意を頂いております。		身体拘束の弊害を全ての職員は理解している。危険行為のある場合は、本人、家族了解の下、抑制を行う時があるが、会議の中で話し合い、拘束のないケアの実践に向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	介護職員の言葉づかい等、不適切な場合はその都度注意し、個別指導を行っている。高齢者虐待防止関連法について、職員がより深く理解が深まるよう、会議の中で話し合うよう努めます。			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の中には、一人暮らしの方が数人おられる為、この制度の必要性を感じている。しかし、活用できるよう支援するまでには至っていない。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書に沿って、十分説明を行いながら、疑問点や質問はないか確認し、納得していただいた上で署名捺印を頂いています。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。ケアサービス担当者会議等でご意見ご要望を伺い、管理者、職員に情報提供をするとともに、今後のケアに反映させている。	運営推進会議に出席してもらったり、担当者会議において意見や要望が出されている。検討すべきことは職員会議で話し合い、早めに対応することで運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任会議や毎月の介護の中で、職員の意見や提案を聞くように心掛けているが、職員全員と、個人的に話が出来る時間を設けたいと考えている。	職員は、気づきや悩みは管理者や主任にいつでも話せる環境があり、毎月の職員会議は意見表出の場となっている。外部から講師を招き、認知症についての講演会を開催するなどの取組もしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が楽しく働き、かつ豊かになれるよう、働きやすい環境整備に努めています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は、事業所内研修を行い、「認知症の理解と介護 心のケア」の題目で、ほぼ全員の職員が講演を聞く事が出来ました。また、ヘルパー2級養成所の実習生を受け入れる事で、職員の意識向上と、ケアの質の向上につながる事を期待している。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	講演会をきっかけに、講師の方の施設での実務研修を計画し、職員の育成や、他事業所との交流も図れ、サービスの質の向上に結びつけたいと考えている。			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からサービス利用の相談があった時は、必ず本人にお会いして、落ち着いた場所で、心身の状態を知る為、本人の思いが十分に表出できるよう、お好きな事等を伺ったりしながら、職員との関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのサービス利用状況やご家族の苦勞などがうまく表出できるよう、ゆったりとした場所で面談し、事業所でどのように対応できるかを話しあい、落ち着いて頂き、相談しやすい関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、心身状況について確認し、改善に向けた取り組みを提案し、病院受診等、共に行動したり、確認し合いながら改善できるよう、相談しやすい関係作りに努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意な分野を生かして頂けるようセッティングし、暮らしの知恵、技など教えていただいたりする一方で、職員は新しい話題・情報等提供し、共に協力しながら生活している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に電話やすいせん便り等で、近況報告を行う等、共に本人を支えて行く為に協力、アドバイスを受けている。行事には気軽に参加して頂けるよう、日頃より良い関係が築けるよう努力している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時にはゆっくりと歓談出来るよう、場所を提供し、友人・家族等に年賀状などを出せるよう支援し、地区のふれあい事業等参加できて、物作り等を一緒に行うようにしています。	地域の作品展に参加することで、ふだん会えない知人、友人との再会が果たされている。地域のレストランに個別での外食支援を実施しており、ほとんどの利用者の楽しみの行事となっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の話を聞いたり、相談に乗ったりしながら、利用者同士が楽しく過ごせるよう、気配り、目配りして、場面作りを心掛け、支え合いながら生活していけるよう、役割活動等をも活かしながら良好な関係が保てるよう工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られたり、長期の入院で退所となった場合にも、情報提供を行い、また、お見舞いや面会に行かせて頂いたり、年賀状を出したり関係を断ち切らないよう努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の声かけや関わり合いの中で、言葉や表情、行動等から、その真意を推し量ったり、それとなくお聞きしたり、ご家族や関係者等から情報を得、その人らしい生活が出来るように努めている。	本人本位のケアを行う中で、寄り添い、傾聴することで、利用者の思いや意向の把握に努めている。マンツーマン対応の入浴の時間は、利用者とのコミュニケーションの場となり、素直な思いを聴くことが多い。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時や外出時等、友人、家族、近隣の方等が声かけて下さり、昔話や近況を話して下さっている中で、馴染みの暮らし方等の理解へとつながっている。本人やご家族の了解を得て、これからも関係持続できるよう努めて行きたい。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前に今までの暮らしについてお聞きし、休息時間の工夫をしたり、お好きな事、得意な事等を把握し、一緒に行ったりしながら、現在行えるか、行える環境はどうか等考慮して、楽しんでいただけるよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人には、日々の関わりの中で、ご家族には連絡等を通じて、思いや意向を聞き、又、アセスメントを含め、その月の反省や会議などで職員全員の意見交換を行い、モニタリング、必要時は職員以外の関係者(医師等)とも話し合い、計画作成している	利用者一人ひとりの担当者が中心となり、アセスメントを含め全員で検討し、本人本位の計画が作られている。計画は毎月反省し、記録に残しており、モニタリングも適切に行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録を用意し、食事、水分摂取量、排泄状況等身体的状況及び、暮らしの様子、言葉、エピソード等を記録し、勤務開始前に確認するようにしており、必要時、全ての職員が情報確認しながらケアし、気づき等の報告もしあい、計画に反映している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の高齢化、就業時間等により、通院や買い物、担当者会等の出席等が出来なかったりする事がある。ガイドヘルパーなどの利用をお勧めしたり、職員が同行、出向いたりしながら、利用者のご本人の生活を支えられるよう努めている。			

宮崎県川南町 グループホームすいせん川南

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、民生委員、区長、地域包括支援センター職員等に参加していただき、情報交換、協力関係を築き、ふれあい事業の参加、消防団との避難訓練、小児、学生、高齢者等ボランティアの方からの支援を受けたり、図書館で本を借りたりしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族が希望するかかりつけ医となっており、基本的にはご家族同行、不可能な場合は、職員の同行やガイドヘルパーを紹介、医療との連携がスムーズに行えるよう情報提供書を持参していただき、医師からもコメント記入して頂いている。	ほとんどの利用者が掛かりつけ医の受診となっている。家族付き添いを基本としているが、不可能な場合はホームが付き添っている。ホームからの連絡シートにて情報を提供し合うなど、掛かりつけ医との関係を構築している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	検温、入浴時の観察、日誌等で健康状態を把握し、気付いた事を看護師資格のあるケアマネ等と相談、具体的な介護の方法、受診法の助言を受け、医療面については、定例会などで報告し、統一した介護支援が行えるよう努めている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急対応として、常に情報提供書の準備は行っており(日々の生活やこれまで知り得た医療情報等記入し、新たなイベントのみ記入するような書式)、連携が図れるようにし、入院時の必要物品の準備、洗濯などに行ったり、面会を通じて情報を交換、家族の相談にのったりして関係作りをしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応について、事業所が対応し得るケアについて説明しており、「緊急時事前確認書」の記入を頂き、地域の関係者と連絡を取りあって支援している。看取りのシステムは導入していないが、望みの施設に空きがなく、家族、医療と連携しながら対応したケースもあった。	契約の段階で本人、家族の意向を聞き、ホームで対応できる支援方法を説明している。利用者の状態変化に伴い、その時々で話し合い・確認し、方針の共有につなげている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時のマニュアルに基づき、状況判断できるように、事例があれば職員の共有化を定例会などで図っている。担架の作り方等は消防職員より学んだ。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は、地震を想定した避難誘導訓練を消防署の職員、地元消防団の方の協力の下、行いました。また、水や食料の備蓄も完備致しました。	今年度、運営推進会議で重点議題としてあがり、地区委員の呼び掛けにより、地域住民協力の下で避難訓練を行った。職員は、通報機器の操作をしっかりと覚えることを課題として訓練している。	夜間災害時における職員および利用者の不安、混乱が軽減でき、素早い対応につながるような訓練の実施を早急に期待したい。	

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の思い、気持ちに添った声かけを行い、ケアするよう努めている。知り得た情報についても職員一同、徹底した管理を行っている。		利用者の尊厳は理念に掲げられてあり、人格を尊重した言葉かけや介助がなされている。声のトーンが優しく、歯磨きやトイレ誘導もさりげなくスムーズに行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意向に添う言葉かけ、「どうされたいですか」とお聞きし、「一緒に致しましょう、行きましょう」等と声かけ、安心して行動できるよう努めている。意思表示困難な時は、表情の観察や、「カード」等を利用し、本人の自己決定を支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとり、本人の体調を見ながら、得意分野が生かせるよう、レクリエーション等の個別対応も行っている。本人のサインを読み取り休息していただいたり、戸外が気になっておられる時にドライブにお誘いして、楽しんで頂いている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回美容師が来られ、本人の希望に添って散髪していただく機会があり、化粧品類は本人の希望に添った物をご家族や職員が購入し、使っておられる。季節ごとの衣替え、衣服のコーディネートのアドバイスを行ったりしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日や行事食は、利用者様の意向を伺い、特別メニューを提供している。旬な食材を準備、下準備を手伝っていただいたり、嫌いなものには代替え物を準備したり、むせのある方にはトロミをつけたりなどして、食を楽しんで頂いている。		職員全員で献立を考え、調理専任の職員が作り、利用者個々に合わせた形態で提供している。利用者の力量発揮の場面は少なかったが、職員も同じテーブルで同じものを食べ、笑顔がある楽しい雰囲気醸し出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩分制限、カロリー制限、カリウム制限等のある方等にも心配りしながら、又、食事形態の考慮や必要時具の工夫等も行っている。1日分の水分摂取量もチェックしており、足りない方には、汁もの、好みの飲み物をゼリーなどで量の確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回(毎食後)歯磨き、口腔内を清浄に出来るよう声かけ、支援している。定期的な義歯洗浄を行い、うがいが出来ない方には、より安全な歯磨き粉を利用して頂いている。夜間は義歯の管理も行っている。毎日口腔体操も行っている。			

宮崎県川南町 グループホームすいせん川南

自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	最終排泄を確認し、尿意の無い方には時間を見計らいトイレへ誘導、又、利用者の様子から察知し、身体機能に応じて手を差し伸べ、本人の自尊心に配慮して、トイレでの排泄を大切にしながら、紙パンツやパット類も状況に合わせて使用している。		排せつを記録することで、一人ひとりのパターンを把握し、トイレ誘導をしている。部屋のポータブルトイレは使わずに、トイレの方が良いと言われる利用者もいる。また、個々の状態に合わせて、時間帯により布パンツやパットの使用も支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に繊維質の多い物を食材取り入れるようにし、排泄パターンを記録し、リハビリ体操や、散歩等を取り入れ、汁ものを多くしたり、オリゴ糖、牛乳、ヨーグルト、ゼリーなどを提供し、水分摂取量の増加を図ったりしている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	施設で提供できる入浴時間は決まっているが、その中でも、希望を聞き、体調に合わせて支援している。入浴にかかる時間は、体調にもよるが、毎回お聞きして意向に添うよう心がけている。失便された時などは、適宜支援している。		基本的な入浴日時は決めているが、利用者の状況により、適宜支援している。個々に対応し、ゆっくり思いのままに楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々により起床。就寝時間は異なり、本人の生活リズムを大切に、夜間睡眠不足の方には午睡をしていただいたり、日中の活動で生活リズムを整えられるようにしたり、定期的な寝具干し、シーツ交換、室温調整等で安眠できるよう工夫している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬に服用法や注意事項の書かれた説明書が添付されており、ケースごとに整理し、内容理解に努め、飲み込まれるまで確認し、その後の状態変化の観察を行い、変化があった時は看護師に報告、医療と連携し、対応するようにしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、縫い物、編み物、野菜植え、庭木の剪定の助言等と得意分野で楽しんで力を発揮していただいております。終了時には感謝の言葉を伝えている。慰問の受け入れやお願い等もしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩、外気浴等の取組を行い、ドライブや外食支援、図書館の利用、墓参りなど、希望に応じた支援を行うように努めている。文化ホールに作品を出展し、見学する為の支援も行った。		個別の外出支援が多くなってきているが、それぞれの希望に沿うよう家族とも協力し、散歩や外食、墓参りなどを支援している。不穩のある方には、管理者が系列の事業所に行く時に一緒に出かけるなど、外出の機会をつくっている。	



自己	外部	項目	自己評価	2棟	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を少し所持し、管理できる方は、少額自分で持たれ、外出時持参され、おやつやクレヨンなど購入されている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人等から手紙が来た時は、読んで差し上げたり、年賀状、暑中見舞いなどハガキの購入、記入時にはアドバイスしたり、ポスト投函を支援している。電話希望時には、話しやすい場所を提供出来るよう努めている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの模様替え(展示物)、四季折々の花を活けたり、冷暖房、照明、日光の差し込み工夫(遮光フィルム、カーテン)、換気等を行いつつ、他者の話声等で、不快や混乱を招かれないように気を配っている。		ユニットごとにある玄関は、家庭と同じような作りになっている。日当たりの良いリビングには、利用者と職員手作りの大作の貼り絵があり、季節ごとに貼り替え、来訪者との話題提供の1つとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで横になりながら、TV鑑賞されたりできるようクッション、毛布を準備したり、グループ別のレクリエーションの取り組みやテーブル席の配置などに気配りしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の愛着のある物を持ちこんで頂けるよう、ご家族にもお願いする。タンスの上などには、ご家族の写真を飾ったり、レクリエーションで作成した作品を飾ったりして、家具は位置も出来るだけ、本人の意向に添った配置としている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が使用される場所、物等、出来る限りわかりやすいように表示し、廊下など手すりを設置して、歩行を支え、玄関にはベンチを置いて、靴の履き替えが安全にできるようにしている。			